

薬剤師まで、あと1年



本日は、実務実習を終えた5年生に話を伺いました。

実務実習は、いかがでしたか？

(石井)僕は最初に薬局での実習、それから病院での実習だったんだけど、薬局での実習が印象深かったです。ドラッグストアでの実習だったんですが、処方箋枚数は比較的少ない代わりに、OTC(一般用医薬品：処方箋が無くても購入できるクスリ)の販売が盛んで、セルフメディケーションを積極的に推進している薬局でした。

(加藤)セルフメディケーションって、患者さんから体調に関することをうかがって、最適なOTC製品を紹介するってことか？

(石井)うん。まあ薬剤師実習だったから、OTC販売がメインだったけど、それ以外に生活習慣に関する…健康支援って言うのかな？…健康の保持増進における運動することの重要性を伝えたり、食生活についてアドバイスしたり、いろいろなことを経験させてもらったんだ。

(伊藤)すごい経験したんだね。ところで、運動のアドバイスって、どんな方を対象に行ったの？

(石井)いや…たまたま対応させてもらったお客さんがダイエットを希望されて。実は僕、過去の最大体重から35kgくらい減量して…(笑)1日30分歩くことから始めるだけでも、ずいぶん違うって経験してるから、…ちょっとエビデンスとしては個人経験だからよくないかもしれないけど(笑)

(長岡)35kgってすごいね(笑)でも、お客さんのニーズに応えるっていうのは大事だね。もちろん、相手が患者さんだったら薬学的知見に基づいて、しっかりと対応することが大事だけど、ドラッグストアなんかでお客さんと対話するときには、自分の経験なんかも踏まえてコミュニケーションを図れるってことは、いいことだね！

(加藤)私は薬局実習のとき、糖尿病の患者さんが多く来局されたので、指導薬剤師の先生に指導を仰ぎながら、患者さんの食事面でのサポートを行いました。糖尿病って摂取エネルギーの管理が大事になるから、食品交換表とかで勉強しながら患者さんが目で見てわかる「食品リスト」を作成しました。

(長岡)実際に実習に出てみると、いろいろなこと感じるよね…これまで学んできた知識をアウトプットしていくってことの重要性を！僕は小児科の門前での実習だったんだけど、クスリの説明は当然、付き添われているお母さんにするわけだけど、お母さんにとって、お子さんが初めて使うクスリが処方されたりすると、クスリの飲み方とかにすごくナーバスになったりされて…。患者さん本人に服薬説明するよりも、すごく気を遣わなきゃいけないなって思いました。

(伊藤)でも、大学での実習のトレーニングってホントよかったね！おかげで、実習先では「そこそこ」

上手くできたかなって自分自身で思うし、本当に基礎がしっかりトレーニングできていたんだなって。ところでみんな、病院の方はどうだった？

(石井)病院でもいい経験ができたと思います。僕は病院で糖尿病患者さんと向き合う機会が多くて。実際に教室型の患者教育に参加させていただいたのですが、患者さんの行動を変容させるって、改めて難しいなって。これまではSPさんをはじめロールプレイの世界だったけど、実際の患者さんを相手にするのは、ホント大変なんだなって感じました。

(加藤)やっぱり病院は、「チーム医療」って感じがすごいよね。石井君の糖尿病教室でも医師や看護師とか、いろんな専門職種が関わっていたと思うけど、私は将来、病院への就職を考えているから、もっといろいろな専門職の方との連携を意識しなきゃいけないんだなって、改めて考えさせられました。

(長岡)実は僕の実習先は救急医療が強いところで…。もちろん、実習期間中は他の施設でもいろいろな経験をさせていただいたんだけど…たまたまかもしれないけど、僕が実習中に搬送されてきた救急の患者さんに対する薬剤師の貢献っていうの、患者さんの治療にあまり携われなかったっていう印象が強くて…。搬送されてきた患者さんは、救急処置を受けた後ICU(集中治療室)に1週間、病棟に移って1週間ほど入院されると、ほかの病院に転院されていくって感じだったから…。病院では患者さんに寄り添って行くってイメージがあったから、実際にここでの施設ではほとんど患者さんとお話する機会がなくて…。もちろん救急でも患者さんの治療に薬学的貢献ってできるんだろうけど…。

(伊藤)私たちはこれまで、大学っていう狭い世界しか知らなかったけど、社会にはさまざまな医療の現場があるんだよね。勝手に医療とか、薬物治療の「現場イメージ」を作っちゃったけど、ホントの現場に出て実習をするっていうのは、世界が広がるっていうのか、勉強させられることが多いね。

この実習は、皆さんの就職感に何か影響を与えましたか？

(伊藤)私は病院と薬局の実習を通じて、将来は調剤薬局で働いてみたいなって思いました。

(石井)僕はドラッグストアかな？実習での経験がすごくよくて…。伊藤さんも薬局実習はドラッグ系だったよね？それで、調剤系なの？

(伊藤)うん。そうなんだよね。実は、私は以前から在宅に興味があって…。実習では、在宅はあま

り経験できなかったから、だからこそ、仕事として在宅と向き合ってみてみたいなって。

(長岡)これまでの薬剤師による在宅医療って、特養とか老健といった高齢者施設への訪問ってイメージがあるけど、これからは個人宅への医療の提供が重要視されてくるのかな？

(伊藤)きっと、そういう風になっていくんだろうなって思っています。患者さん宅にクスリを届けるだけではなく、患者さんの話に耳を傾けられる薬剤師になりたいなって。

(石井)僕は実習で少し在宅ができたけど、患者さんとの何気ない会話っていうのも大事なんだよね。会話の中から普段の生活の様子が垣間見えることが多くて、その中で「ちょっと普段と違うな」って言葉をいかに拾えるかが、ポイントだね！

(長岡)それから残薬のチェックをしたり、医師との連携を密にして…。地域で生活している人たちに貢献できる仕事っていうのはいいよね！僕は地元が浜松で、将来は地元に戻って働きたいなって思ってます。

(加藤)私は、病院かな？みんなも知ってるのとおり、私は東北薬科大学出身で、でも4年制だったから薬剤師の免許が取れなくて…。それでこの大学に編入学してきたんだけど、やっぱり患者さんに寄り添える薬剤師になりたいなって思っていて、今は病院を志望しています。ところで石井君はドラッグストアを志望って言うんだけど、これからのドラッグストアって、どんな風になっていくのかな？

(石井)それは…難しい質問だね(笑)でも、いまやコンビニの数よりも多くなった「ドラッグストア」だからこそ、できることってまだまだあるんだろうなって思っているんだ。例えば、地域住民の健康支援の拠点になるとかね。

(伊藤)そう言えば、薬局でも自己採血による血液検査が可能になったんだよね。血液検査なんかに、もっと多くの地域の人々が興味を持ってくれたら、「地域の健康は地域で守る！」みたいな雰囲気が出ていいよね。

(長岡)でも、健康診断が面倒って言う人たちがけっこういて、そんな人たちがわざわざお金を払ってまで積極的に検査を実施してくれるのかな？たしかに建物として、ドラッグストアが近くにあるっていうのは便利かもしれないけど、自分の健康拠点として捉えてくれるのかどうかは、その住民と薬剤師とのコミュニケーションがっていうのか、信頼関係が構築されているかどうかによるんじゃないのかな？薬局でも病院でも、実習を通じて薬剤師さんと患者さんの信頼関係っていうのはたくさん見てきたからね…。

(加藤)そうですね。結局は人と人とのつながりが大事なんだよね。患者さんと、そのご家族と、あるいは医師や看護師といった異なる医療従事者と…。コミュニケーション力が社会では大事だってよく耳にするけど、やっぱりその背景には信頼関係がないとね！

(石井)それにドラッグストアって、クスリだけではなく日用品だってたくさん置いてあるでしょ？身の回りの健康に気付いてもらうチャンスがたくさんあるって思うんだ。クスリはもちろんのことだけど、あらゆる角度で健康を提供できる薬剤師を目指したいなって思わせてくれた実習でした！

(伊藤)私は、在宅医療における薬剤師の可能性を広げられるように頑張ります！

(加藤)私は病院で…病棟勤務薬剤師として患者さんや医師・看護師といった医療者に頼られる薬剤師に！

(長岡)じゃあ…。とりあえず、あと1年とちょっと。しっかり勉強して、まずはきっちり国家試験に合格だ！就職はそのあとで、ゆっくりと…(笑)



伊藤 碧(5年)
幕張総合高校出身(千葉県)



長岡 智青春(5年)
浜松南高校出身(静岡県)
東京理科大学卒業



加藤 紗耶香(5年)
聖ウルスラ学院英智高校出身(宮城県)
東北薬科大学卒業



石井 秀典(5年)
柏の葉高校出身(千葉県)



城西国際大学の6年制薬学教育



「遠くの大病院よりも、近くの頼れる薬剤師に！」



2015年4月カリキュラム改訂 これからの社会に必要とされる医療人に。
JIU薬学部が、あなたの「自己実現」を支えます!!

超高齢化と国際化が進む日本社会のこれからの地域医療を支えるために、主体的に行動できる薬剤師の輩出を目指しています。

従来の医療薬学のみならず、栄養、福祉、看護・介護、セルフメディケーションなどの幅広い専門知識と国際感覚を有し、あらゆるライフステージにある人々の健康に興味・関心を抱き、人々から信頼される、地域に根ざした薬剤師を養成します。

寄附講座：「ウエルシアトータルヘルスケア講座」

「まちの人々の健康と幸せを考えるトータルヘルスケアステーション」を目指すウエルシア薬局さんのご支援により平成22年度より寄附講座：ウエルシアトータルヘルスケア講座を毎年開講しております。この講座では、店舗勤務する薬剤師の方々が、OTC医薬品の販売接客について指導していただきます。卒業生も指導者として講座に参加してくれ、学生たちは現場で生かせる知識とスキルを体験することができました。



12年卒の池田雄太さん(左)、上野代香里さん(中央)、河村裕紀さん(右)も後輩たちの指導に駆けつけてくれました！



ウエルシア薬局さんによる4年生対象マナー講座では、実務実習に向け社会人としてのマナー研修が行われました！

女性リーダー育成奨励生



藤原真理子さん(4年生)

藤原さんは薬学部代表として、各学部の奨励生と共に、3月6日～14日開催予定のブタベスト商科大学(ハンガリー)での女性リーダー海外研修に参加する予定です。



ブンナビ薬学特別講座 2014

特別協賛：アイセイ薬局・サンドラッグ・千葉薬品・日本調剤・友愛メディカル
企画・運営：文化放送キャリアパートナーズブンナビ薬学プロジェクト

協賛5社より薬剤師として活躍する先輩たちのトークセッションが行われました。現在の仕事のやりがいや学生時代の過ごし方など多彩なトークが交わされました。なお第1部ではチベット医(アムチ)の資格を持たれる薬剤師小川康先生によるご講演がありました。



ブンナビ薬学 特別講座 2014 城西国際大学 薬学部 キャリアガイダンス

ブンナビ 薬学

バンパー竹内の Campus Radio

聴くクスリ

2014.12.18(木) 13:30 ~16:10

城西国際大学 水田記念ホール

薬学生の就職活動を支える情報サイト「ブンナビ薬学」が、薬剤師を目指す薬学生の皆さんにおけるラジオ公録風特別講座です。様々な分野で活躍する著名人をゲストに、文化放送竹内アナウンサーが心にお話をさせていただきます。題して Campus Radio「バンパー竹内の聴くクスリ」です。



(左から) 樹友愛メディカル・菅谷優美さん(12年卒)、日本調剤(株)・清和英里子さん(13年卒)、樹千葉薬品・三須貴之さん(9年卒)、樹サンドラッグ・小原直弥さん(12年卒)、樹アイセイ薬局・中新田貴伯さん(14年卒)

2015年度生 募集 大学院 薬学研究科 医療薬学専攻 博士課程

城西国際大学 入試・広報センター TEL: 0475-55-8855 E-mail: admis@jiu.ac.jp <http://jiu.ac.jp/pharmacy/graduate/index.html>